

## NDSの人財育成 ～現場力のその先へ 自身の経歴をふりかえって～

NDS 株式会社

NTT 事業本部 名古屋支店 エンジニアリング部 高度技術担当  
森辻 浩史さん



### 1. はじめに

私は2000年4月にNDS株式会社へ入社し、今年で19年目を迎えました。

これまでにアクセス設計・施工・管理とさまざまな仕事を経験して、活躍できるようになるまでには時間がかかりましたがたくさんの事を学びましたので、自身の経歴をふりかえることでNDSの人財育成についてご紹介させていただきます。

### 2. 設計担当へ配属

(2001年5月～2005年2月)

9カ月間の現場OJTを経て入社2年目でアクセスの設計担当へ配属となり、約4年弱の間、一般工事の設計を担当しました。

支障移転工事や地中化工事、中でも最も記憶に鮮明に残っているのが、愛知万博とセントレア（中部国際空港）への引込工事の設計を任せていただいたことです。

大きな敷地の中で行う工事はたくさんの業種の方との打ち合わせや、日程調整などが大変でとても苦労しましたが、大きなトラブルもなく無事完了でき、これからも設備として残っていくことをとても誇りに思います。

### 3. 設計担当からアクセス直営施工担当へ異動するきっかけ

(2005年3月～2006年9月)

現場経験が少ない中での設計は、知識も乏しく作業内



森辻 浩史さん

容や実際に施工する事のできない図面を書いていることもあり、現場の方に迷惑をかけるようなことをして、現場を見に行っただけに叱られるということも多々あり、叱られた意味も分からず悩んだ日々が続きました。現場作業を理解し、施工する皆さんに迷惑をかけないようにしたい、との思いから、直営施工担当への異動を志願して、光接続班へ異動させていただきました。

### 4. メタル技術継承とマルチ技術の習得

(2006年10月～2007年7月)

光接続班で約1年7カ月を経験し、局内作業も覚え切替をすることができるようになりました。

その当時NDSは、光接続は直営で施工していましたが、メタル工事全般はすべて協力会社頼みという状況でした。

その状況を打開しようと、NDSテクノロジー総合セ

ンターにメタル技術継承に特化した「エキスパートカレッジ」コースが開設され、私も受講し10カ月間みっちりスタルペスケーブルとPECケーブルの施工ができるようにレガシー技術の習得をしました。

技術習得後は協力会社の方に付いて学び、7年間メタル施工を現場で実践し支障移転工事の地下スタルペス切替工事はもとより、鉛管解体、架空ユニット集約工事、πやRSBM切替工事等、たくさんの現場を経験しレガシー技術のすべてを施工することができるようになりました。光設備も経験があったため1つの図面を自分の班で施工することが可能となり徐々に後輩や新入社員が加わり、若手社員だけで光・メタル技術のマルチ施工班として確立することができました。

## 5. 第8回光通信工事技能競技会への参加と総合優勝への道のり

(2013年7月31日出場)

競技会に参加する1年前からパシフィコ横浜で開催された第7回大会を見学に行き、施工品質と施工スピードを競う熱い戦いを目に焼きつけて帰り、競技を意識して1年間現場で腕を磨きました。

光通信工事技能競技会へ出場するため、NDS社内選抜大会へ出場し見事に優勝を勝ち取り代表選手として選ばれました。選抜されてからは、NDSテクノロジー総合センターでしっかりと本番を意識した練習を繰り返し、苦手な箇所やミスをするポイントを練習しました。



写真1 競技会 出場「複合設備施工競技」

3競技ある中で「複合設備施工競技」へ出場し(写真1)、個人では18社中6位に入賞することができ、3競技を合計した総合得点では他社を上回り、初めて創設された会社別の総合優勝を勝ち取ることができました。自分1人の技術ではとても勝つことができませんでした。選手もコーチも一体となり、熱心に指導していただいたおかげで勝ち取った結果だと強く感じました(写真2)。

## 6. 大規模災害の応急復旧工事への取り組み

(2014年6月9日～10日)

名古屋駅前再開発の建築工事が起因して、地下メタルケーブル2条が損傷するという設備事故が発生し、名古屋駅周辺の全体ビルを収容しているケーブルであったため、早急に応急復旧する機会がありました。切断されたケーブルの被害状況把握や心線対照に苦労しましたが、以前なら協力会社頼みだった事が自身が所属する直営だけで早期に対応することができるようになりました。

## 7. 高度技術担当の発足～現在は女性社員も活躍する部署～

(2014年4月1日～現在)

NDS名古屋支店ではNDS社員で編成された外線、光、メタル施工班があり、すべての工程が直営で施工できることから「高度技術担当」という名前を冠した部署が設



写真2 第8回光通信技能競技会 会社別 総合優勝



図1 高度技術担当設置の狙い

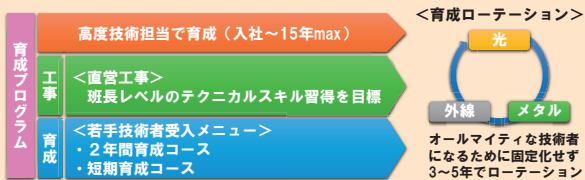


図2 高度技術担当における育成プログラム



写真3 高度技術担当 全員写真（2018.6現在）

置され（図1・2）、2014年4月に施工管理2名、現場15名の合計17名で発足しました（写真3）。

それまでは、1つの工事を施工班別に施工していましたが、現在は全員がマルチ技術者となり小さな工事ならば1班ですべての作業をできるまでに成長しました。

また2017年10月より女性社員も1名加わり、女性も活躍できる部署に発展しております（写真4）。

## 8. 現場から施工管理へステップアップ

（2015年1月～現在）

現場作業については、メタル・光施工はもちろんの事、外線工程もある程度経験したため、2015年1月より施工管理へ役割が変わりました。主にNTT様一般総合工事を担当しています。工事の予定を計画し、お客様PRから始まり、施工班の担当を決め、回線借用、施工班へ



写真4 女性社員も活躍中

の作業指示、安全パトロールをしています。

急な作業員の体調不良による欠員や、工事の進捗に遅れが生じた場合など、作業員が不足した場合は今でも現場へ行って作業をすることもあります。





写真5 ITEA研修 講師 (NDSテクノロジー総合センター)



写真6 ITEA研修 講師 (NDSテクノロジー総合センター)



写真7 新入社員 昇柱訓練 (NDSテクノロジー総合センター)

## 9. 育成する業務に携わる

(2015年1月～現在)

NDSテクノロジー総合センターにて毎年弊社新入社員やグループ会社の新入社員基礎研修のインストラクターとして担当しております。朝のラジオ体操から始まり昇柱訓練、メタル設備の座学と実習や、NDSとシーキューブ様とのITEA合同研修でも、シーキューブ様と一緒に講師をさせていただきました(写真5～7)。また自身が研修に参加したエキスパートカレッジでも、インストラクターの立場として技術継承を広める業務に携われるようになりました。生徒から先生へと立場が変わり、技術を0から教えることの難しさや、人に

分かりやすく伝えることの難しさが分かり、自分が教わった事を思い出しながら研修をし、教えた人が後に現場で活躍できる「人財」となることの喜びを知りました。また、高度技術担当では光通信工事技能競技会へ出場する選手への技術指導をし、毎年NDS名古屋支店高度技術担当から選手を出場させることができるような体制となり、全体的な技術力の底上げにもつながりました。

## 10. おわりに

振り返ると、18年間とても充実していて、NDSの社風と私の個人目標が合致するように、道筋を作り人材育成を計画してくれていたことと、上司、先輩、後輩、社員皆に恵まれていたことが自分の成長につながり、遠回りだと思ってやってきたことが結果的に一番の近道だったと思います。入社もない頃は気も声も小さく、高校を出たばかりの私にとって、大きな会社の中で自分自身を出すことすらできませんでした。しかしそんな私の事を最後まで諦めず、厳しい中にも優しさのある、情熱を持って指導して下さった方のおかげで今の自分があると感じます。

これからもその情熱を絶やすことなく後輩を育成していき、今後も若手が成長でき後に指導する側へとローテーションできるよう環境作りをすると共に、自身も共に成長できるように尽力してまいります。